

## コロナの先に何を見るか？

2020年という年は世界中の人にとって忘れることのできない年になった。当社は、コロナ禍が食品産業、農林水産業、系統組織などに与える影響について調査・発表<sup>(注1)</sup>してきたが、並行して「(食品の)物流」「スマート農業」というテーマに関わる機会を多くいただいた。

一つ目の「食品の物流」については農林水産省を中心に一貫パレチゼーションをはじめとする施策について協議・推進<sup>(注2)</sup>を行っているが、ここでは国土交通省が20年末に取りまとめ予定の「2020年代の総合物流施策大綱に関する検討会」<sup>(注3)</sup>における物流全般に関する強い危機感・課題意識をご紹介します。まず労働力の不足、トラック積載効率の低下、近年のEC市場の成長、災害の激甚化・頻発化など、取り巻く環境の厳しさを確認したうえで、「新型コロナウイルス感染症の流行により、ヒトに比べてモノの動きは相対的に活発化し、(中略)労働力の不足に拍車がかかる」とコロナ禍の影響に言及し、「今なお物流の現場では、書面手続や対人・対面に拠るプロセスが多いが、デジタル化による作業プロセスの簡素化や汎用化は、(庫内作業用のロボットなどによる)非接触・非対面型物流の構築に必須」とし、「様々なデータを可視化し、関係主体が対人・対面によらずとも即時にそれを共有可能とすることは、作業プロセスの汎用化等を通じた多様な担い手の確保や、検品レスをはじめとしたプロセスの大幅な合理化を促すきっかけともなり得る。こうしたDX(デジタル化)の推進のためには、その前提として各種要素の標準化<sup>(注4)</sup>が必要である」と主張する。さらに「SDGsやグリーン社会の実現を目指した取組など、経済や地球環境の持続可能性を高めるための取組も積極的に推進すべき状況にある」と社会的課題も強調している。なお、食品の物流で大きな役割を担っている市場、例えば東京都中央卸売市場においても「市場の活性化を考える<sup>(注5)</sup>会」で同様の危機感・課題意識をもって協議されている。

次に「スマート農業」について。11月に澁澤栄東京農工大特任教授の「コミュニティベース精密農業の系譜と展望」という講演会を開催した際に多くのことを<sup>(注6)</sup>教えていただいた。

精密農業(スマート農業)とは、複雑で多様なばらつきのある農場に対し、事実の記録に基づきそれぞれのばらつきに応じたきめ細かな管理をして、地力維持や収量と品質の向上そして環境負荷軽減などを総合的に達成しようという農場管理・戦略である。こうした管理で得たほ場状態と作業履歴についての克明な記録をもとに生産現場のトレーサビリティを実現し、「情報付きほ場」から生産される「情報付き農産物」を多様な消費者の情報と共有することや、小売店までの物流の最適なルートを選択などに活用するという将来につながるとしている。

これらの話はスマートやデジタルという言葉は使うものの、単に機械の導入を推しているのではなく、標準化などのプロセス構築、ひいては川上から川下までの事業の再構築と消費者に届くまでのプロセス全体による商品の差別化を主張している。サプライチェーン全体の課題でもあり各地域個別の課題でもある。

コロナの先に何を見るか、どういう事業を構築するかが問われている。コロナ禍を奇貨として、直売所や地域内流通への取組み<sup>(注7)</sup>などによる足元の地域経済循環への目配せもしながら、各地域による差別化への挑戦が行われることを期待したい。

(注1) 当社ホームページ参照 <https://www.nochuri.co.jp/topics/covid19.html>

(注2) 農林水産省は「サステナブルな食品輸送の実現へ」というシンポジウムを北海道、福岡県で順次実施し食品物流合理化の必要性と対応について討議している。 <https://www.gov-online.go.jp/tokusyuu/COVID-19/policy/food-ryutsu.html>

(注3) 出典：国土交通省2020年代の総合物流施策大綱に関する検討会、提言とりまとめ(案) <https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/content/001376789.pdf>

(注4) 加工食品については20年3月に「加工食品分野における物流標準化に関する議論の整理」として、納品伝票の標準化、外装表示の標準化、パレット・外装サイズの標準化、コード体系・物流用語の標準化という物流標準化に関する具体的なアクションプランが取りまとめられている。

(注5) 東京都中央卸売市場ホームページ参照 <https://www.shijou.metro.tokyo.lg.jp/gyosei/kaigi/kangaerukai/>

(注6) ここで紹介する内容は、11月当社講演会(別途公開予定)のほか、19年3月東京農工大学における講演会資料 [http://web.tuat.ac.jp/~sakaes/shibuken/files/FL\\_20190309.pdf](http://web.tuat.ac.jp/~sakaes/shibuken/files/FL_20190309.pdf)、『精密農業』(朝倉書店、澁澤編著、2006年)を参考にした。

(注7) 国土交通省は例えばヤマト運輸が新潟で行った「青果物少量多品目輸送の効率化」の実証試験について報告している。 <https://www.mlit.go.jp/common/001342365.pdf>

**(株)農林中金総合研究所 代表取締役社長 齋藤真一・さいとう しんいち**